

2017 年

1月5日



2107.01.05(木) 晴れ

2017年今年初めてのバスツアー、最初はクラブツーリズムでなく神姫バスツアー。三木小野からは10人ほど乗車、福崎・加東からは既に合計30人ほどいただろうか。天気も上々淡路島7カ所 智禅寺、長林寺、護国寺、萬福寺、覚住寺、宝生寺、八浄寺の順にお参りした。

家内安全、不老長寿、無病息災・・・いろいろ欲張りな祈願をいっぱいしてきた。7つのお寺とも共通のお経をとえた。「般若心経」である。参加者のなかにはともに唱える声があちこちから聞こえた。このお経のひびきが神妙で厳かであつ親しみやすいものを感じた。ファンになりそうな感じさえした。

結構なご馳走の昼食と休憩をはさんで7~8時間、淡路島全土、北から南まで巡回し、少しだけ観潮も出来た。

1月 02・05・11

福崎(7:00)・社(7:30)・三木(8:00)



各地—**智禅寺** (芸術・学業の神、弁財天)—**長林寺** (幸福、高給、長寿の神、福祿寿)—**鳴門みさき荘** (ご昼食)—**護国寺** (幸福をもたらす神、布袋尊)—**万福寺** (漁業、農業、商業の神、恵美酒)—**覚住寺** (厄除け・難除け・財産をもたらす神、毘沙門天)—**宝生寺** (長寿の神、寿老人)—**八浄寺** (五穀豊穡の神、大黒天)—**淡路ハイウェイオアシス** (お買物)—各地 (18:20~19:30頃)

淡路島



めぐり七福神

「しあわせを呼ぶ風光の島 淡路島」

淡路島七福神めぐり



①智禅寺



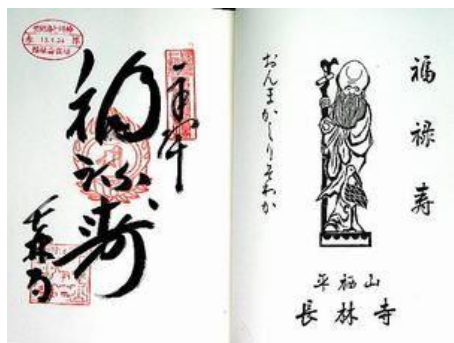
大廣山 智禅寺

当山は高野山真言宗に属し
大廣山智禅寺と称し御本尊に
大日如来を奉安する淡路の古刹
で開基は不詳なるも近くに明神
古墳などがあり往昔の歴史を物語
るものであります

しかし爾来栄枯盛衰免るゝに能
わず今はわずかに南北朝時代観応
二年（一三五二）の大般若經六百卷に
千古の歴史を止めるのみであります
今日は淡路島七福神霊場として
名高く辨財天を奉祭し香煙絶え
ることなく人々に親しまれています

山主





②長林寺







④万福寺





⑤ 覚住寺



⑥ 宝生寺



寿老人心得五か条

- 一、人と仲良く付きあつて
- 二、不平不満は言わないように
- 三、余計なことはしやべらぬように
- 四、無理をいうまい無理するな
- 五、遠いようでもいつかは「時」が

いつもニコニコすこやかに
感謝の気持ちをお忘れずに
つい一言がにくまれる
時代の流れをよく見て暮らせ





⑦八淨寺





昼
食



良妻・賢母の道を授けるみ寺

大広山

智禅寺

弁財天 (知恵の神)

弁財天さまは河川の流れる音の「音楽の神」音楽には「和音」と「不協和音」とがあります。快い名曲にはそれなりの和音があり、音律が狂うと聞きづらくなるものです。

言葉づかいかも音楽のひとつ、何気ないあなたの一言ひとことが他人を勇気づけたり、傷つけていたりするものです。常日頃、言葉ひとつに他人を思いやる知恵の一言一句が福を積む因でございます。



御真言 おんそらそばていえいそわか
御詠歌 ひく琵琶の妙なる音にも
似たるかな福を喜ぶ諸人の声



縁起

本尊は大日如来像を安置し、仏法有縁の修業道場として開かれた霊跡は、脇侍に祭祀する地藏菩薩像とその御厨子には、大古の歴史が偲ばれる。所蔵されている寺宝の大般若経には、観応二年(三三二)の路があり、又、本堂背後の丘陵に、風雪に耐えた法篋印塔がわびしく佇み、寺院の歴史が秘められて

一月七日 初弁天祈願祭
八月二十三日 千体地藏流し
毎月七日 縁日護摩祈願

●智禅寺 淡路市草香
●電話 (0799) 861-472
●FAX (0799) 801-6002

達者で長寿を授けるみ寺

十輪山

宝生寺

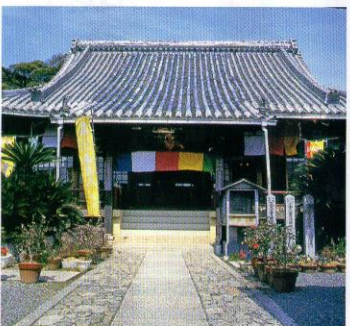
寿老人 (長寿の神)

桃は若さのシンボル。「西遊記」に孫悟空が桃の木から長寿の実をとり、元気をとり戻したことは有名な逸話です。

寿老人さまのもつ桃は、美しく歳をとり、美しく老いてゆくことの大切さを示されています。また鶴と亀と鹿は長寿のシンボルとされています。美しく齢を重ねるには日常、鶴のごとく美しく、亀のように耐える勇気を持ち、鹿のように注意深く、俊敏にということでございます。



御真言 おんばざらゆせいそわか
御詠歌 玄鹿の命長きにあやかれと
枝を引きつつ世を救う神



縁起

天平十三年(七四〇)、聖武天皇の勅命をうけ、僧行基が淡路島に建立を祈念し、自ら刻まれた地藏菩薩を安置したのが創まりで、「日限地藏尊」と崇められ、霊験あらたかな尊像として多くの人々に親しまれて来た。

五月十三日 寿老人長寿延命祭

●宝生寺 淡路市塩田里
●電話 (0799) 611-905
●FAX (0799) 611-2691

大望成就を授けるみ寺

平栖山

長林寺

福祿寿 (大望の神)

「良いこととわかっていてもなかなか実行できないのが人の常でございます。他人より「ひと味ちがう」大望成就の人生を謳歌するために朝夕、福祿寿の誓願を読み、誦んじてみてはいかがかな。「分を越えて求むることなく、財を費さず、陰徳を積む者は福に恵まれる。」(お顔で表す)「君親の恩を忘れず、行状を慎み、天分を守るものは縁に恵まれる。」(宝珠で表す)「飲食大酒を禁じ、色欲を慎み、気血を養うものは寿運に恵まれる。」(鶴亀で表す)



縁起

天平九年(七三七)、僧行基がこの地に七堂伽藍を創建し、本尊十一面観音菩薩像を安置したのが創まりで、塔頭十二坊を構え、弘法通の霊場として威容を誇っていた。延喜元年(九〇二)、菅原道真が九州に赴くとき当地にとどまり、長林寺の御堂に参詣された。

一月一日〜十五日 福祿寿縁日
七月十七日 つかいだんじり祭礼
●長林寺 洲本市五色町都志万蔵
●電話 (0799) 331-0111
●FAX (0799) 331-1160
●高速バス 五色バスセンター
都志線 都志下車



御真言 おんまかしりそわか
御詠歌 仰ぎみるその御顔の長きこと
延寿の徳を与えます

家庭円満・和合を授けるみ寺

賀集山

護国寺

布袋尊 (和合の神)

この世の中は五濁悪世と嘆いてばかりおれはせぬ。清濁も合せ呑みこむハラをもち、背負った袋は宝物、だけど自分のものではありませぬ。困った人への贈りもの。年に一度のサンタクロースどころではありませぬ。左右の大きな耳たぶは、他人の話を聞き分けて、言つてはならぬことは耳たぶへ貯めて大きくなりました。

布袋尊は仲よく暮らせる人間の理想の姿をあらわされたものです。※五濁悪世「世の中、時代、人の心など五つがよこれている悪い世の中」と云えよう。

縁起



御真言 おんまいたれいそわか
御詠歌 限りなき宝の布袋みてはげめ
笑う門には福来たるなり

行教上人が開創された由緒ある古刹で、本尊の大日如来坐像は、慈願にみちたお姿で胎蔵界を表現し、千年の歴史が偲ばれる。行教上人は、大和安寺の僧で三輪宗及び真言宗を学び、後に伝灯大法師に任じ、貞観元年(八六九)、豊前宇佐八幡宮に参詣し二年余りをここに過ごした。行教上人有縁の史跡と云えよう。

四月五日 ほてい祭
毎月五日 縁日

●護国寺 洲本市賀集八幡
●電話 (0799) 541-0259
●FAX (0799) 541-0487

しあわせを呼ぶ風光の島…花咲みだれる七福神まんだら 淡路島 七福神めぐり

古事記や日本書紀の神話によれば、日本の国を創った「イザナギ」「イザナミ」が最初に生んだ島が淡路島だとされています。

この「日本のふるさと」淡路島には、歴史のロマンを秘めた数多くの史跡や文化遺産があり、四百余りの古刹の社寺が点在しています。それぞれ古くから人々の信仰を育んできましたが、とりわけ七福神信仰は淡路全島の町や村の風土の中で素朴で厚い信仰を集めてきました。

えびす大黒を始め、古くから幸福を招くといわれる七福神をそれぞれお祀りする寺院が広く全島にまたがり、まさに淡路島そのものが七福神乗合いの宝船と見たてられます。

明石、紀淡、鳴門の三つの海峡に囲まれた景勝地淡路島の風光を織りまぜての七福神めぐりは、心の里帰りの場として、ふるさとの温かさや心の安らぎを与えてくれます。世界最長の吊橋・明石海峡大橋は、島をつなぎ、人をつなぎ、未来への夢をつなぐ橋と言えましょう。

淡路島七福神めぐりは、まさしく心の中の宇宙への旅であり、壮大なロマンの旅でもあります。



幸せの釣り方授けるみ寺

加集山

万福寺

恵美酒神（律義の神）

えびすさまの左手の鯛は「めでたい」のたい「般」には「芽出る」の意味があります。

若芽がやがて大樹になるように、何か良くなる「兆（きざし）」を芽出したいとなりました。今、いろいろと叶えてほしい希望や悩み。その「何とかして解決を」と努力する姿こそが幸福への芽であり、めでたいのです。右手の釣り糸一筋は礼儀を重んじ、迷いなく人間らしく一筋に生きぬけとの示唆でございます。

御真言 なむえびすたいじん

御詠歌 釣り上げし鯛を宝とどきかかえ 笑う恵美酒は福徳の神



縁起

宝亀年間（七七〇）淳仁天皇の御陵と、御母当麻夫人の墓守を勤める僧侶の宿坊として創草されたが、時代の変遷とともに、いつしか廃退していった。応永年間（三九四）になり、当地に館を構えた加集氏により堂宇を再興し、御陵の安徳と民衆の安泰を祈念する寺院として今日に継承されてきた。本尊の大日如来像二体を合祀する須弥壇は、非常に貴重な様式である。

一月十日 えびすまつり

- 万福寺Ⅱ南あわじ市賀集かじや
- 電話（〇七九九）五四・〇二四四
- FAX（〇七九九）五四・〇三二四
- 縦貫線 賀集橋下車

勇氣と決断を授けるみ寺

南隆山

覚住寺

毘沙門天（勇氣の神）

母親の愛に対して、父親の慈悲。愛だけではこの人生の荒波をのり越えることはできません。金のようにいで魔をよせつけず、悪業煩惱を押え抜け、清く、正しく、力強く生き抜く勇氣がなくてはなりません。

一家の柱のお父さん一家一族を守るため、この人生の激流に足を踏んばり仁王立ち！

父の慈悲と母の愛、相互に相まつて一家和楽の風が吹く。

※悪業煩惱―過去世の悪の因による欲望

縁起

推古天皇の頃（五九二）聖徳太子の勅詔に依り創建されたといえられる。往時七堂伽藍を備えた広大な寺領に塔頭も多くを数え、その威容を誇っていた。当寺は、淡路島でも最古の寺院のひとつと云えよう。

毎月寅の日 縁日

●覚住寺Ⅱ南あわじ市神代社家



御真言 おんべいしらまんぢやそわか

御詠歌 魔を降す猛き姿にひきかえて 情にあまる福徳の神

身・心の裕福を授けるみ寺

蓮台山

八浄寺

大黒天（裕福の神）

大黒さまのお持ちの「ふくろ」は「福労」とも呼ばれています。苦勞をいとわず、かつてで、その積み重ねをためこむための「ふくろ」です。

この「ふくろ」から身・心ともに裕福な人生が右手の打出の小槌をうち振ることによってあふれ出るのです。

大黒さまの「打出の小槌は」意け心「よしまな心」弱い心「など」邪悪な心を打ち振って、人の迷いを晴らします。

縁起



御真言 おんまかぎやらやそわか

御詠歌 打つ槌に宝の雨をふらしつつ 無福の民を救う御神

應永年間（三九四）心了法師阿弥陀如来造立に創まり、延宝年間に盛南上人、円融山浄満寺を中興されて後、八幡神社別当寺の平松山八幡寺と合併して、八浄寺と改称される。秘佛開運大黒天は、不動明王の靈示により示現なし、靈威広大にして、多大の奇瑞をあらわし、身・心の裕福を授けるみ寺として賑う。

殊に七福神霊場の総本尊として我国唯一の瑜祇七福之塔が聳え、宇宙の靈妙なるパワーが体感できる。

●開扉大祭は、二五、十一月の各二十六日

●八浄寺Ⅱ淡路市佐野

《宿坊 収容人員二〇〇名》



●電話（〇七九九）五五・〇二二二

摩訶般若波羅蜜多心經

觀自在菩薩 行深般若波羅蜜多時 照見五蘊皆空 度一切苦厄 舍利子

色不異空 空不異色 色即是空 空即是色 受想行識 亦復如是 舍利子

是諸法空想 不生不滅 不垢不淨 不增不減

是故空中無色 無受想行識 無限耳鼻舌身意

無色声香味触法 無限界乃至無意識界

無無明 亦無無明尽 乃至無老死 亦無老死尽 無苦集滅道 無知亦無得

以無所得故 菩提薩垂 依般若波羅蜜多故

心無罣礙 無罣礙故 無有恐怖 遠離一切顛倒夢想 究竟涅槃 三世諸仏

依般若波羅蜜多故 得阿耨多羅三藐三菩提

故知 般若波羅蜜多 是大神呪 是大明呪 是無上呪

是無等等呪 能除一切苦 真実不虛 故説般若波羅蜜多呪 即説呪曰

羯帝羯帝 波羅羯帝 波羅僧羯帝

菩提 僧莎訶 般若心經

全部の神社で「般若心經」を唱えた